

秀歌三十首十今年の収穫

大谷ゆかり

夏の日を思ひ働く人のみて水を抜かれた花菖蒲園
一月号・増田満美子

ペン先に無職と書かせ鳩尾に酔の溜まりゆくやうなゆふぐれ
松元 雅子

いっばいの洗濯物を干し上げて水の匂いの深呼吸する
加藤由かり

もこもことマスクが動き友達は目と眉毛にて話しておりぬ
湊 美根子

シエスタをしてゐる間にも変化する花とは時の単位のひとつ
植田 真純

雨に打たるる真白きシャツは若者の肌に貼りつき瘦身を彫る
岡田恵美子

季節の針行きつ戻りつする日暮れテールランプの赤が際立つ
二月号・清水あかね

階段を下りるはづみに砕かれたマヌカハニ一の飴のざらつき
小林 賢太

お隣も苗字に川の文字がつく一緒にながむ浦上川を
北川 秀子

退職の希望告げれば夕ぐれの駱駝のような目に見られたり
三月号・倉石 理恵

自転車をおもいおもいどこぐ足で葱も豆腐も坂道のぼる
川又 和志

夜勤明けの子は背を丸めゼンヌの林檎のようにごつりと眠る
曲渕江里子

溶暗のBGMとみなすべし案外やさしい色のふゆ空
四月号・木場 陽子

転職を決めた夫のはなむけにソレイユ色の鞆をポチる
志水千登世

いちちはやく風の方角陽の高さ知らせてくれるユーカリが好き
五月号・青木 泰子

真夜中に真緑の灯が点滅しこの世にいない人が駆け出す
十亀 弘史

外側でなく内側を見るための窓を求めて水族館へ
武藤 義哉

さびしさは嫌ひではない冬の夜をきつちり留めるマイクローモン
岸並千珠子

窓外は冬の田園終点へなほ加速して列車はすすむ
古賀 公子

落ち椿深々と積みメルヘンな前籠、二月の夫の自転車
花 美月

アヴェ・マリアあはく流るるきざはしに人の静脈を指に辿れり
六月号・松本 実穂

日めくりの厚さの戻る一月の雪からのぞく梅のふくらみ
岡本 秀美

北向きの冬の底なるキッチンにトーチカのごと立つ冷蔵庫
福崎 享子

たつぷりと春の光をあびて来しシャツは脱がされ洗濯される
桑野 智章